

## 着衣水泳の授業を終えて

日本では年間千人近い方が、水の事故で亡くなられているそうです。これらの事故は海や川などの自然環境下で着衣のまま発生することが多いです。一松小学校地区は海に近いので注意が必要です。そこで、7月16日(火)に、J-PROさん、日本水難救済会さん、海上保安庁さんにご協力をいただき、着衣水泳を行いました。子供たちは楽しみながらも、着衣をしていると体が重くなることや、様々な水辺での浮き方を体験し、効果的に救助を待つ方法を学びました。

午後は、オンラインで「海の怖さ」について授業をしてくださいました。みんな真剣に聞くことができました。

### 児童の感想

「海は、楽しい場所だけど、少し気を抜くと命を奪うものと知りました。もし、海で流されている人、溺れている人がいたら、118番に電話します。これから海に入るときは、気を付けます。」

5年 秋山 清世香

「海には、たくさんの危険があるということが分かりました。イカ泳ぎなどをやったあと、ものすごく服が重かったです。これからは、危険に注意をして教えてもらったことを生かして、海に行きたいです。」

5年 片岡 莉愛

「着衣水泳では、浮き方やイカ泳ぎを学びました。分かりやすく教えてくれました。水害があっても焦らず、浮くことが大切だと分かりました。これからも命を大切にしていきたいです。」

6年 片岡 縁

「僕は、着衣水泳を体験して服のまま泳ぐと服が重かったり、ライフジャケットを着て泳ぐとあまり体力が消費しなかったりすることが分かりました。僕はこれから水害に気を付けたいなと思いました。」

6年 大野 桃李

